

Japanese Graded Readers

レベル別
日本語多読
ライブラリー



にほんごよむよむ文庫

レベル 1 vol.2 6

タクシー



にほんご よむよむ文庫 レベル 1

たくしー

作 (さく) : 松田 緑 (まつだ みどり)

挿絵 (さしえ) : うえだ いずみ

監修 (かんしゅう) : NPO 法人 日本語多読研究会 (にほんご たどく けんきゅうかい)

<監修者紹介>

NPO 法人 日本語多読研究会 (にほんご たどく けんきゅうかい)

当研究会は、学習者のための「読みもの」をつくることを目的に、日本語教師が集まって、2002年1月に発足しました。2006年9月にNPO法人になりました。「レベル別読みもの」を開発したり、それらを使った「多読」の授業の実践・研究をしたりしています。http://www.nihongo-yomu.jp

レベル別日本語多読ライブラリー (にほんご よむよむ文庫)

[レベル1] vol.2

タクシー

2007年6月1日 初版 第1刷 発行

2010年10月27日 初版 第2刷 発行

著者：松田 緑 (日本語多読研究会会員・日本語教師)

作画：うえだ いずみ

監修：NPO 法人 日本語多読研究会

ナレーション：篠原 明美／山中 一徳

録音・編集：スタジオ グラッド

デザイン・DTP：浅妻 健司

発行人：天谷 修平

発行：株式会社アスク出版

〒162-8558 東京都新宿区下宮比町 2-6

TEL.03-3267-6864 <http://www.ask-digital.co.jp>

印刷・製本：株式会社光邦

許可なしに転載・複製することを禁じます。

乱丁・落丁はお取り替えいたします。

©NPO法人日本語多読研究会 2007

Printed in Japan ISBN978-4-87217-641-4

日本語を勉強しているみなさんへ

「にほんごよむよむ文庫」は、

日本語を勉強しているみなさんのための「読みもの」シリーズです。

楽しみながらたくさん読んでください。

やさしいものからたくさん読むと、知らないうちに漢字の読み方や言葉が身につきます。

読んだ話をCDでも聴いてみてください。読みながら聴いてもいいでしょう。

目からも耳からもどんどん日本語を吸収しましょう！

「にほんごよむよむ文庫」4つのルール

- 1 やさしいレベルから読む。
- 2 辞書を引かないで読む。
- 3 わからないところは飛ばして読む。
- 4 進まなくなったら、他の本を読む。

にほんご よむよむ文庫 レベル 1

た く し ー タクシー

作 (さく) : 松田 緑 (まつだ みどり)

挿絵 (さしえ) : うえだ いずみ

監修 (かんしゅう) : NPO 法人 日本語多読研究会 (にほんご たどく けんきゅうかい)

木村^{きむら}さんは、タクシー^{たくしー}の運転手^{うんでんしゅ}です。

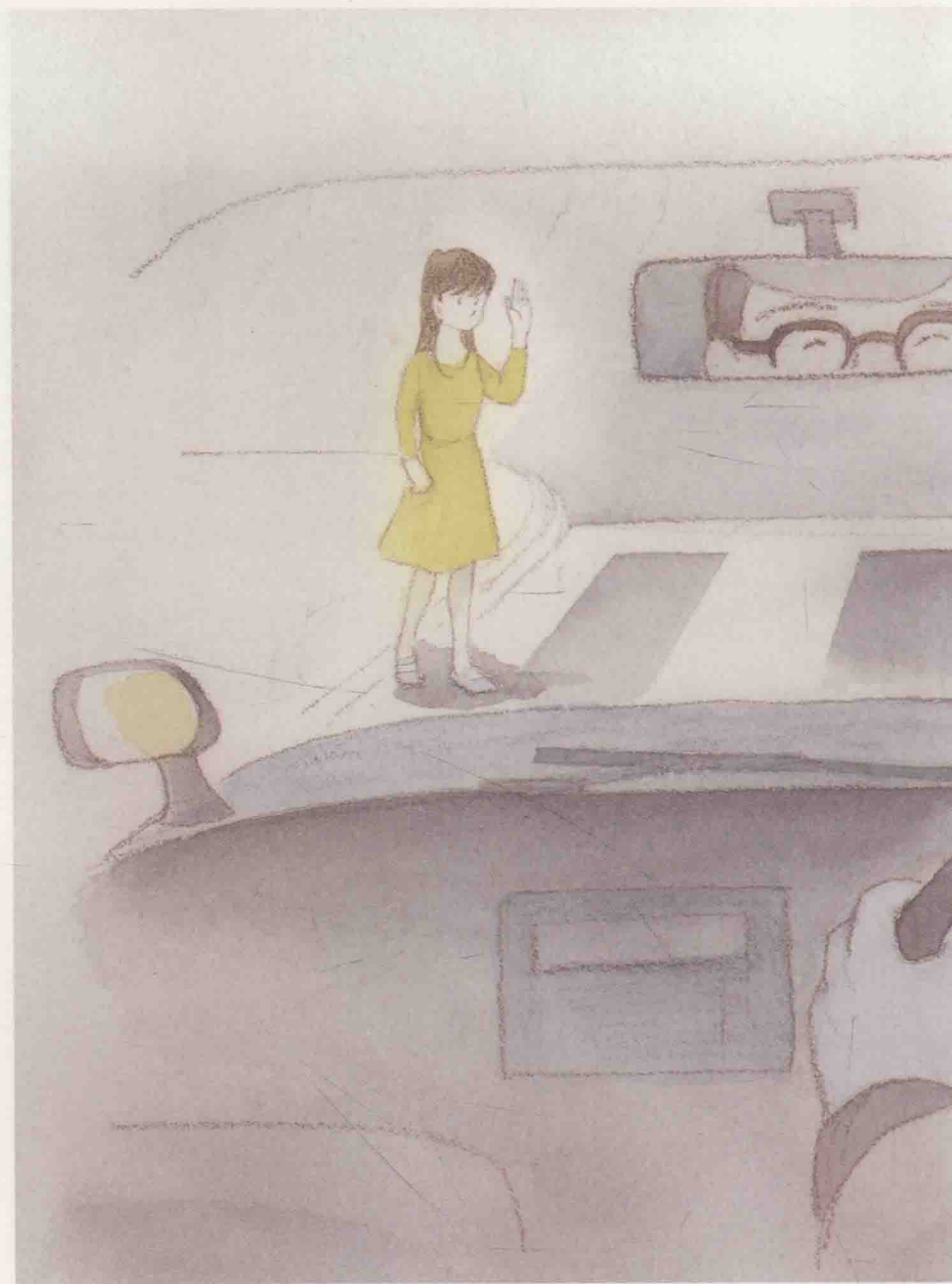
ある日^ひの夜^{よる}、木村^{きむら}さんのタクシー^{たくしー}は、緑町^{みどりまち}の大きな道^{みち}を走り^{はし}ました。

とても寒い夜^{さむいよる}でした。

緑町^{みどりまち}の交差点^{こうさてん}で、女の子^{おんなこ}が手^てを上げ^あました。

木村^{きむら}さんのタクシー^{たくしー}は、女の子^{おんなこ}の前に^{まえ}、ゆっくり止^とまりました。





きむら
木村さんは、
たくしーのドアをあ
けました。
おんな
女の子は、
たくしーにの
りました。



木村さんは聞きました。

「どこまで行きますか？」

女の子は答えました。

「桜公園まで、お願いします」

女の子は、十二、三歳ぐらいでした。

黄色い服のかわいい子です。



木村^{きむら}さんは、女^{おんな}の子^こに言^いいました。

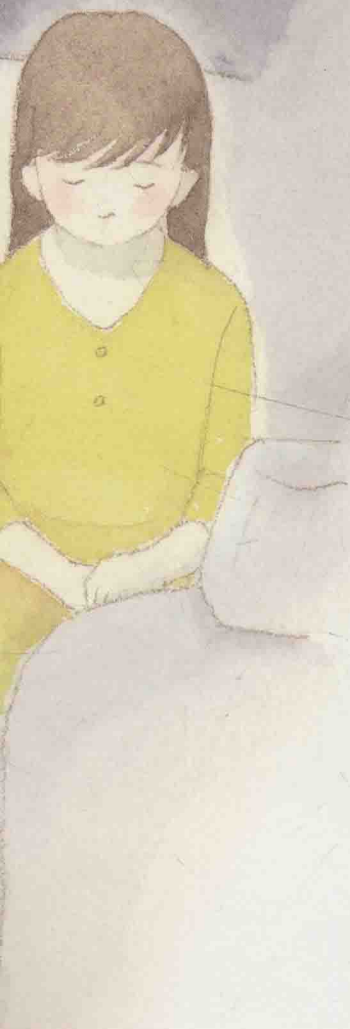
「もう九時^{くじ}ですよ。一人^{ひとり}ですか？」

女^{おんな}の子^こは言^いいました。

「少し前^{すこまへ}まで、友だち^{とも}の家^{いえ}にいました。自転車^{じてんしゃ}で、この交差点^{こうさてん}まで来^きました。

でも、ここで自転車^{じてんしゃ}が壊^{こわ}れました……」

「そうですか。それは大変^{たいへん}でしたね」



おんな こ
女の子は聞きました。



さくらこうえん なんぶん
「桜公園まで、何分ぐらいですか？」

じゅうぶん
「十分ぐらいですよ」



たくしーは、桜公園に着きました。

公園の隣に、小さな家がありました。

女の子は言いました。

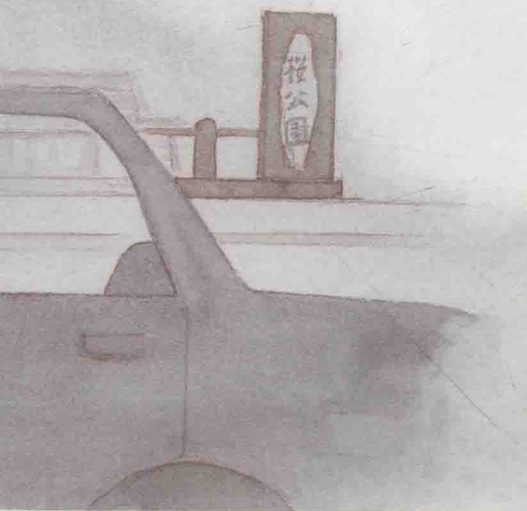
「ここが私の家です。

すみません。今、お金がありません。

でも、家に母がいますから、母にももらいます」

木村さんは、タクシーのドアを開けました。

女の子は、家の中に入りました。





木村^{きむら}さんは、

車^{くるま}の中^{なか}で五分^{ごふん}ぐらい待^まちました。

女^{おんな}の子^こもお母^{かあ}さん^きも来^きません。

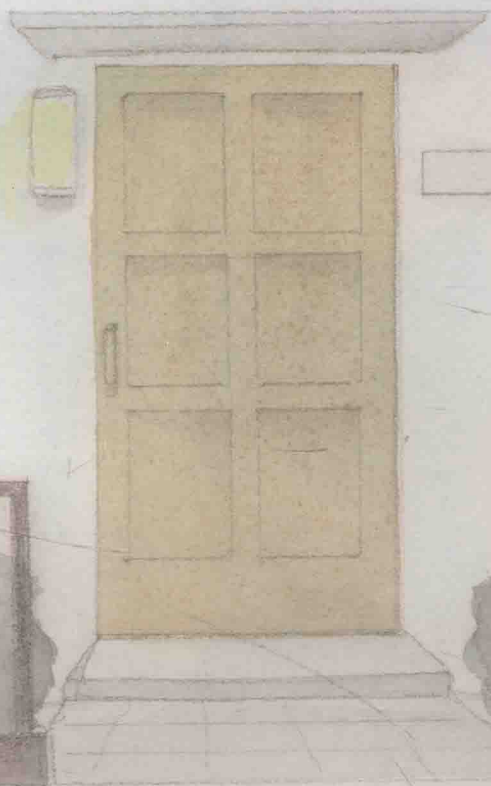
木村^{きむら}さんは、車^{くるま}から降^おりました。

家^{いえ}の前^{まえ}で、また五分^{ごふん}待^まちました。

でも、だれ^きも来^きません。



きむら
木村さんは、
おお
大きな声で言いました。
こえ
「ごめんください」



よんじゅうさい
四十歳ぐらいの女の人^{おんな ひと}が、
家^{いえ}のドア^{どあ}をあ^あけました。

ひと
その人^{ひと}は言^いいました。

なん
「何^{なん}ですか？」

